

# 命を守る、命をつなぐ

## なごや HAPPY タウン／名古屋市消費生活フェア 2017 出展報告



消費者行動ネットワークは栄のオアシス 21 で 2 日間にわたって開催された名古屋市の消費生活イベントにブース出展しました。初日の 11/3 (金) は、「HPPPY タウン～こどものまち～」子ども達に地震をイメージした「なまず」の塗り絵をしながら「命を守る」術を伝えました。2 日目の 11/4 (土) には、大人を対象に防災・減災について問いかけました。そして「命をつなぐ」方法として、「ローリングストック法」を紹介し、「今日から備えましょう」と呼びかけました。

ブースでは同時に「命を守り、つなぐアンケート」を実施、124 名の方から回答をいただくことができました。災害は、ワザワイのガイと書きます。地震や火山、風水害は、自然現象による災害で発生を防ぐことはできません。発生したら、いかに命を守り、被害を最小限にするかの「減災」がポイントになります。これに対し、原発事故、戦争・テロは、人の活動に起因するもの。取り組みいかんによっては発生そのものを防ぐことができます。今回、自然現象に起因する災害を「自然災害」。人的活動に起因するものを「社会災害」と定義し問いかけました。とりわけ最悪の社会災害「戦争」について「戦争は起こしてはならない。外交努力と相互理解の推進を最優先で」の項目に回答者中 73% (91 名) の方の賛同をいただきました。微笑みながら子どもの塗り絵を見守る親御さん。地震を起こす「なまず」は退治できませんが、社会災害は私たち大人の責任で防ぐことができます。以下、ブースで展示、呼びかけた内容とアンケート結果です。(CAN レポーター 大村昌宏)



今、私たちの「命を脅かす」ワザワイ（災い）を列挙しました。自然現象に起因する風水害、地震、火山噴火等を「自然災害」として、人的な活動に起因する原発事故、戦争・テロ、食料危機、感染症・パンデミックを「社会災害」としてとりあげました。



自分の命は自分で守る、家族で守る「自助」。ご近所、地域で守りあう「共助」。行政（国・自治体）のサポート「公助」。それぞれが機能してこそ「命を守り、つなぐ」ことができます。それぞれが機能する上で大切なのは日頃の「信頼の醸成」です。相互に不信感があれば守れる命も守れません。



アンケートの「水害や地震への備えについてご家族で話し合ったことがありますか？」の問いに8割の方が話し合ったことがあると回答。話し合ったことがないは2割でした。

次に「いざという時、たよりになるのが共助。ご近所、地域のみなさんとの助け合い。この問いに75%の方が「お互いさま」と日頃から挨拶を交わしていると回答。16%が「知っているがあまり親しくない」。9%が「あまり知らない。疎遠だ」と回答しました。

地震で家屋等が倒壊した場合、自力では脱出できないことがあります。そこで頼りになるのがご近所力。お互いに声をかけあい、助け合うことができれば「命を守る」力を強めることができます。またご近所の高齢者や障害を持った方を知っていれば配慮、支えあうことが可能になります。



私たちが営む日本列島は、地球上で最も地震が多い「変動帯」にあります。巨大地震が周期的に発生しています。東海エリアでもプレート型の巨大地震が今後 20 年~30 年の間には必ず発生すると言われています。発生したら ①「身を守る」 ②「命をつなぐ」 ③「助け合い」弱者(障害者・高齢者・子ども)をサポートすることが重要と呼びかけました。



アンケートで「地震の際、家具は凶器と化します。転倒防止等の対策を講じていますか?と問いかけてみました。6割の方が実施していると回答しましたが、残りの4割の方が実施していませんでした。その内まったく考えていないと回答した方が4%いました。命を失ったら元も子もありません。命を守るために、すぐに家具の固定を!



命をつなぐ上で、「水」と「食料」の備蓄は絶対条件です。巨大地震の場合、被災地域が広範囲にわたるため、救援物質はすぐには届きません。一週間程度は持ちこたえることができる量の備蓄が必要です。そこで活用したいのが「ローリングストック法」。長期保存水や食料を特別に蓄えるのではなく、普段使いの水や食料を多めに購入、ストックし、先に購入したものをから順番に消費、買い足しておく方法です。

また冷蔵庫の有効性も紹介しました。冷蔵庫は転倒等しなければ、たとえ電源が切れても、保冷保管庫として機能します。傷みややすいものから順番に食す。冷凍品も解凍したものから食せば、命を繋ぐことができます。

## 命をつなぐ→「衛生」 トイレをどうする？

水道の復旧には、1か月ほどかかることも・・・

大便は、1人1日約200g排泄される。  
200g × 30日 = 6,000g どう処理する？

**トイレでの排泄**

- ◎ 水を流して下水へ
  - ・残しておいた風呂の残り湯を活用
  - ・貯めておいた雨水を活用
- 底に敷物をして排泄
  - ・庭に穴をあけて土の中へ投入し処理
- × マイオマルを工夫する
  - ・ポリバケツが便利
  - ・下水のマンホールに投入
    - ・ゴミ袋等で密封して保管。可燃ゴミとして出す。
  - ・防臭対策/ベット用のを活用
  - ・新聞紙等

排泄物の放置は、不衛生。感染症の発生原因にもなり危険！

避難所トイレは限られている。マイオマルを工夫するのがベター。

一番やっかいなのが「トイレ」をどうするか！水道が止まれば、汚物を流すことができません。お風呂の残り湯を残しておく習慣をつければ、一定量の処理水は確保できます。

庭のある方は穴を掘って汚物を処理すれば微生物が分解処理してくれます。マンション等の方は汚物を新聞紙等で包み、買物袋等の袋に入れて燃えるゴミとして処理を依頼するのもよいでしょう。公的な避難所等のトイレは限界があり、処理がわからないことが予想されます。

汚物の処理を怠ると不衛生になり、感染症等の原因ともなります。我が家でどう処理しやりくりするか、非常時に備えておきましょう。



## 「パリ協定」発効

「台風19号」  
890hpa  
中心付近最大風速 60m/2  
最大瞬間風速 85m/s

スーパー台風、増加中。

温暖化による海水温の上昇が原因

狂暴化させないために！

「CO2排出削減」  
脱炭素化社会の実現を急ぎましょう！

同じ自然災害でも人間の活動、社会活動のありようが大きく影響している自然災害があります。気候変動、地球温暖化による異常気象の多発やスーパー台風の出現です。産業革命依頼の人間の活動により、温暖化効果ガス、CO<sub>2</sub>の排出量が劇的に増加したことが、地球の気候システムを狂わせ始めています。もはや地球温暖化を止めることはできませんが、それを2℃以下に抑制すれば、まだコントロールが可能だと言われています。「CO<sub>2</sub>排出削減、脱炭素化社会の実現」は待ったなしです。



# 「命を守る、命をつなぐ」アンケート

実施日時 2017/11/3(金)~4(土)両日 11時~16時

会場 名古屋市栄 オアシス 21

回答数 124名 (α%=該当回答数/124)

## 1. 地震の際、家具は凶器と化します。転倒防止等の対策を講じていますか。

- a. 家具が倒れたり飛んできて凶器と化す！まったく考えてもいなかった。…………… 4%
- b. 対策が必要と考えているが、まだ実施していない。…………… 39%
- c. 転倒防止や固定など実施している。(一部でも結構です)…………… 57%

## 2. 災害に備えて「水の備蓄」をしていますか？

- a. 1週間分以上の水を備蓄している。…………… 20%
- b. 3日以上の水を備蓄している。……………55%
- c. 水の備蓄はまったくしていない。……………15%
- d. その他……………10%

## 3. まずは「自分の命は自分で守る」(自助)が重要です。水害や地震への備えについてご家族で話し合ったことがありますか？

- a. 話し合ったことがある。……………78%
- b. 話し合ったことがない。……………20%
- c. その他……………3%

## 4. いざという時、たよりになるのが共助(ご近所、地域のみなさんとの助け合い)です。

- a. 「お互いさま」と日頃から挨拶をかわし親しくなるよう努めている。……………75%
- b. 知っているがあまり親しくない。……………16%
- c. ご近所や地域の方のことはあまり知らない、疎遠だ。……………9%

## 5. 地震や火山噴火、台風等の自然災害は発生を防ぐことができません。しかし社会災害は、人間が原因で起きること、取り組みしだいで発生を防止できます。あなたが必要だと思う項目に全て丸をつけてください。

- a. テロの温床は貧困。経済的自立ができるよう援助を強めよ。…………… 52%
- b. 原発事故は、原発を無くせば、発生を防げる。原発のない社会をめざそう。…………… 51%
- c. 戦争を起こしてはならない。外交努力と相互理解の推進を最優先で。…………… 73%
- d. 軍事力を強めないと相手になめられる。力の均衡を保ってこそ平和を保てる。…………… 9%
- e. 国民監視を強めることは、不信と不安を増やすだけだ。情報公開と政治参加の促進こそ必要。…………… 35%
- f. その他、どんな取り組みを強めることで社会災害の発生を防止できるか自由にお書きください。……………

アンケート結果の集計結果を見て、多くの市民の方の良識を感じ取ることができました。ワザワイを防ぐ、発生したらそのワザワイを小さくする努力をする。この根本にあるのは、信頼にもとづく助け合いです。巨大地震や集中豪雨などの荒ぶる自然現象の前に、私たちはあまりに小さな存在です。しかし助け合うことにより、かけがえのない命を守り、繋ぐことができます。

そこで忘れてならないのは、1923年の関東大震災で起きた悲劇です。「朝鮮人が井戸に毒物を投げ込んだ」のデマが拡がり、自警団によって多くの朝鮮人が虐殺されました。これには軍関係者も関わっていました。「不信」がこのような悲劇を招いたのです。

互いを「個人として尊重」する。「暴力を許さない」。弱者をサポートし共に生きる。これは日常生活で私たちができることです。そんな小さな取り組みの一つひとつが災害に強い社会を創っていくことにならないのでしょうか。